

10

31

日本最大のスタートアップ支援拠点が誕生

STATION Ai



STATION Aiは、地上7階建て・施工面積2万3600㎡の日本最大のスタートアップ支援拠点で、10月に名古屋市鶴舞公園横にオープンします。スタートアップの創出・育成やオープンイノベーション(※)を促進するため、国内外の支援機関・大学などとの連携を通じて、さまざまな支援サービスを提供します。

※自社の技術と他社の技術を掛け合わせて、新たな価値を生み出すこと。

PICK UP

- スタートアップ1000社、集積予定
- 建物全体に先端設備が満載
- イベントスペース・カフェ・フィットネスジムを設置
- 県を代表する創業者を紹介するあいち創業館を設置

PARTNERSHIP ウェルネスバレーが、STATION Ai パートナー拠点に

超高齢社会に突入し、医療介護現場の人手不足などが切迫した課題となる中、STATION Aiには、ヘルスケア事業を展開するスタートアップが多く集まっています。これらのスタートアップとのネットワークを有するSTATION Aiと、医療介護施設の集積を生かし、マッチングの支援体制・実績を有するウェルネスバレーが連携することで、医療介護現場の課題解決が加速することを期待しています。



MERIT パートナー拠点になるとメリットがたくさん

STATION Ai

- スタートアップの集結
- 世界各国とのネットワーク
- 世界に向けた情報発信

スタートアップの流入

- ヘルスケア
- 教育
- 農業

世界中の革新的な技術を市内で活用

イノベーションの創出

- 新規事業・新領域の展開
- オープンイノベーションの促進
- 社会課題の解決

大府発の新たな製品・サービスが誕生

連携フィールドの拡大

- 医療介護施設
- 市内企業
- 教育現場
- 農地

多数分野でスタートアップと連携

市内に新たな産業が生まれ、育つサイクル(エコシステム)が形成されることも期待できます。

※ウェルネスバレーとは、健康・長寿に関する研究機関や施設が集積したあいち健康の森とその周辺地区を指す総称のこと。



ウェルネスバレー

スタートアップ

PRODUCED BY 商工業ウェルネスバレー推進課 ☎(45)6255

夢の扉

革新的なビジネスモデルの構築などにより、急成長を目指す企業「スタートアップ」。

現在、このスタートアップへの注目度が、かつてないほどに高まっています。

国も「スタートアップ育成5か年計画」を策定するなど、支援に本腰を入れる中、県が整備する日本最大のスタートアップ支援拠点「STATION Ai」が、今年10月に名古屋市にいよいよオープン。そこには、世界中から革新的な技術を持つスタートアップが集結します。

市が事務局を務めるウェルネスバレー推進協議会は、

昨年9月に、尾張・知多地域で初めてSTATION Aiパートナー拠点に位置付けられました。

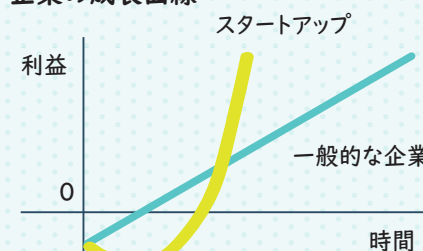
一見遠く感じるスタートアップと健康長寿を掛け合わせた取り組みや

カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みなど、連携事例は多岐にわたり、

これからの日本を支える革新的な製品・サービスが、大府から生まれようとしています。



企業の成長曲線



ABOUT

スタートアップとは

世の中になかった新たな価値提供を通じて、未開拓の市場に挑戦し、短期間のうちに急成長を目指す企業のこと。

革新的なアイデアを通じて、社会や人々の生活を変革する目的で立ち上げることが多いです。



MERIT

スタートアップがもたらす効果

社会課題の解決

スタートアップの多くは、社会課題の解決をビジネスの種にしています。スタートアップとの連携により、市が抱える社会課題の解決につなげます。

新製品・サービスの創出

スタートアップは、相手のニーズに合わせて技術を柔軟に活用できます。市内企業と連携することにより、新製品・サービスが生まれます。

地域の活性化

スタートアップを市外から呼び込むだけでなく、大府からスタートアップが生まれることで、起業風土が醸成されるなど、地域が活性化します。

産業の振興

市内企業が、スタートアップの新たな製品・サービスなどを導入することにより、業務効率化や企業価値の向上といった産業の振興につなげます。

INTERVIEW 新しいものが誕生して、感動が生まれる その挑戦をみんなで応援しましょう

STATION Aiは、スタートアップ支援拠点であり、オープンイノベーション拠点でもあります。新たな協業が生まれるよう、オフィス内にコミュニティマネジャーを配置して企業同士をつなぐことはもちろん、自然とコミュニケーションが発生するような仕掛けを施します。しかし、どれだけ優れたアイデアや技術を持っていても、それが証明されないと意味がありません。ウェルネスバレーは、ヘルスケア事業に特化した実証の場が備わっているため、そこで効果を発揮し、大きく羽ばたいていくスタートアップが生まれることを期待しています。起業という選択肢を当たり前にして、挑戦する人たちと一緒に応援していける地域にしていけたらと思います。

STATION Ai 代表取締役社長兼CEO 佐橋宏隆さん



COLLABORATION

スタートアップによる新しい技術やイノベーションは、自分にはあまり関係がないことだったり、難しく敬遠してしまったりするかもしれません。しかし、こうした新しい取り組みは、私たちの暮らしをより豊かにしてくれる可能性があります。

ここでは、大府発のスタートアップや市内企業・施設のスタートアップとの連携を紹介します。



市内企業 認知症施策 介護福祉施設

スタートアップとの連携

介護福祉施設 × スタートアップ



(株)musbunは、学生と福祉に特化したマッチングサイト「musbun」を開発し、ボランティアやインターンシップなどの福祉体験を通して、学生と福祉施設を結ぶ事業を展開。市の医療・介護福祉現場と企業が連携する医福工連携マッチングを活用し、ウェルネスバレーの介護福祉施設と学生とのマッチングに取り組んでいます。

また、至学館大学の現代教養科目「人間力総合演習」で、musbunを活用した演習を行っています。これらの活動から、(株)musbunは、大府市を初めてのサポーター自治体としました。

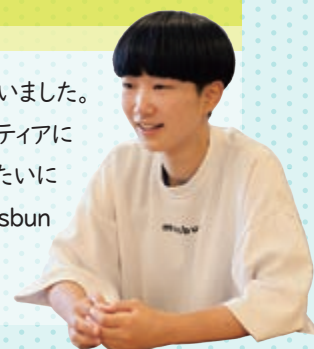
学生とつながる
ボランティアのマッチングアプリ



INTERVIEW 介護福祉施設と学生を結んで、恩返ししたい

高齢者が多い地域で生まれて、小さい頃からかわいがってもらってきたので、ずっと恩返ししたいと思っていました。大学生の時、今すぐにできることとして介護施設へボランティアに行き、介護の魅力に気がきました。ボランティアに行くまでは、大変そうというイメージが強かったけど、体験してからはイメージがガラッと変わったので、私みたい施設に足を運ぶ機会が作れたら興味を持ってくれる子が増えるのではと思い、musbunを開発しました。musbunを使って、ボランティアに参加した学生がその福祉施設に就職したという、うれしい報告も届いています。

(株)musbun CEO 鈴村萌芽さん



大府発 × スタートアップ



(株)Field Alliancelは、市内の自動車部品メーカーである(株)松尾製作所の社内ベンチャーとして2019年に設立。自動車部品製造で培ったセンサー技術を生かし、片手で簡単に、1枚単位でウェットティッシュを取り出せる完全非接触の自動おしぼり供給機「SAWANNA」を開発しました。医療機関での使用用途や課題抽出のため、実証先紹介の相談があり、市がウェルネスバレー関係機関に照会したところ、あいち小児保健医療総合センターから協力の申し出があり、実証事業を行いました。現在は、市役所や市内外の飲食店などでも導入が進んでいます。



INTERVIEW 時代の流れに遅れず、常に新しい情報へとアップデート

時代の流れにアンテナを張り、常に新しいことにチャレンジする環境が必要と考え、(株)Field Allianceを立ち上げました。スタートアップだからこそ新しい取り組みができ、スピード感を持って対応できます。

SAWANNAは、東京オリンピックに向けて来日する外国人をターゲットに日本の清潔なおしぼり文化を提供し、赤ちゃんのおしり拭きにも展開できるだろうと考え、開発しました。現在は、飲食店や宿泊施設を中心に利用が進み、プラスチック包装を削減できることからSDGsにも取り組んでいます。

(株)Field Alliance 代表 松尾基さん



ARMEC 市内企業 × スタートアップ

CO₂排出量の可視化に取り組むスタートアップの(株)テックシンカーから、カーボンオフセットに関する提案が市にあり、市が市内企業に呼び掛け、ゼロカーボンを進めるアルメック(株)とマッチングしました。

アルメック(株)は、自社の努力では削減しきれない温室効果ガス排出量を、他の場所での削減・吸収活動を支援することにより埋め合わせる「カーボンオフセット」を実施。木曽三川流域の保全と水の安定供給を目的とした「水源の森づくりプロジェクト」を支援する形で行うため、自社の脱炭素化だけでなく、地域の水資源確保や多発する災害対策に寄与しました。



INTERVIEW 多様な分野でスタートアップと連携していきたい

カーボンオフセットに関心があったので、(株)テックシンカーを紹介してもらいました。(株)テックシンカーは、単純にカーボンオフセットの取引を自社に代わって行うだけではなく、特設サイトを作って社会へと発信してくれました。自社だけでは、スタートアップとつながるのは難しいと思うので、今回のマッチングは、非常にいい機会になりました。今までの常識ではできないと思っていたことを覆していく点にスタートアップの役割があると思うので、今後もさまざまな分野で連携していきたいです。

アルメック(株) 管理部次長 野々口慎さん



認知症施策 × スタートアップ

Hubbit



国立長寿医療研究センターとHubbit(株)は共同研究契約を締結し、同社が開発したシニア向け簡単コミュニケーションツール「ケアビー」を用いて、認知症の方が継続的に医師との遠隔診療を受診できるかを検証しています。

この取り組みをきっかけに、Hubbit(株)代表取締役の白井貴紀さんは、国立長寿医療研究センターの研究員に着任。ケアビーもウェルネスバレーブランド認定を取得するなど、市とも密に連携しています。



INTERVIEW 話せる伝言板「ケアビー」を後期高齢者のインフラへ

老化により身体・認知機能が低下して、寝たきり状態になっても、その人らしく過ごせる社会を作りたいと思い、Hubbit(株)を立ち上げました。ケアビーは、高齢者のコミュニケーションツールとして操作は簡単に、よく使うビデオ通話などは、何も触らなくても動くようにしています。国立長寿医療研究センターとの検証では、全員問題なく受診でき、慣れ親しんだ医師が家で診てくれるという事実、メンタルがポジティブな方向に動いている様子が分かりました。将来的にケアビーを高齢者の生活に欠かせないツールにしていきたいです。

Hubbit(株) 代表取締役 白井貴紀さん





小・中学生向け

起業体験

ワークショップ



県内在住・在学の小中高生を対象に、起業について知り、新規事業の立ち上げを体験するワークショップです。

自分で考えたアイデアや起業家による講演をもとに、身近な課題の解決方法を検討したり、投資家へのプレゼンテーションを体験したりするなど、自分で考え行動することで将来の選択肢を広げ、起業を志す人材を発掘・育成します。

Elementary School Student 小学生

- ①自分の興味のあることから始める自由研究の作り方を考えます。興味の種を集めてテーマとし、プロジェクトに変えていく体験をします。
- ②卵を落としても割れないプロテクターを開発する科学実験を行います。実験を通して、新しい事業を生み出すプロセスを体験します。

▶日時 8/3(土) ①9:30~12:30
②14:00~17:00

▶場所 大府商工会議所

▶対象 県内在住・在学の小学4~6年生

▶定員 各30人(先着順)

▶料金 無料

▶申込 QRコードの申込フォームへ。

※①②両方の参加可。



Middle School Student 中学生

身の回りの不便・不満・不安などをもとに、チームで解決したい課題を見つけ、課題を解決するアイデアを考えます。

▶日時 ①8/24(土) 14:00~17:00
②31(土) 10:00~17:00(全2回)

▶場所 ①オンライン ②大府商工会議所

▶対象 県内在住・在学の中学生

▶定員 20人(先着順)

▶料金 無料

▶申込 QRコードの申込フォームへ。



VOICE 去年の参加者の声



小学6年生

実験が好きで、興味を持ったので参加しました。実験を通して、自分の考えが本当に合っているかを確かめて、そこからどうしたらいいかを考える楽しさを学びました。



小学6年生

初めて会う友達と協力して、アイデアを出し合うことが、楽しかったです。他の人の考えたアイデアも、とても参考になりました。



INTERVIEW スタートアップが、より身近な存在へ

医療介護施設や市内企業だけでなく、市内の祭りやイベントを通じて、市民の皆さんにもスタートアップの技術に触れもらう機会を作りたいと思っています。ぜひ新しい技術にたくさん触れて、試していただきたいです。

今は遠く感じられるかもしれないスタートアップという言葉ですが、日常的に使用しているサービスの多くに、スタートアップの技術は活用されています。STATION Aiのオープンをきっかけに、スタートアップが皆さんにとって、より身近な存在になることを期待しています。



商工業ウェルネスバレー推進課 沖健人



Talk

ウェルネスバレーとスタートアップの今後の展望と期待について、関係者の皆さんにお聞きしました。

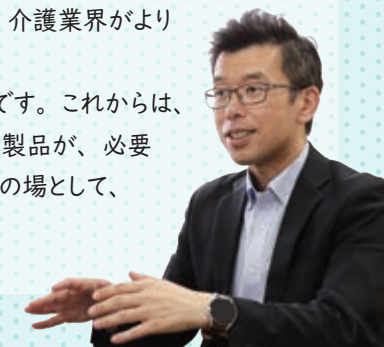


INTERVIEW スタートアップとの連携で、幸齢社会実現へ

ウェルネスバレーでは、医療福祉現場の課題解決のため、今まで多くのスタートアップと連携してきました。今はまだ介護業界で扱っていない技術などでも、困り事の解消に役立つかもしれないということで、製品化に向けた初歩段階での実証にも協力しています。まずは、現場で働く私たちが何に困っているか、どうしてほしいかをしっかりと発信していくことが大切だと思います。そうすることで、スタートアップが私たちの思いをくみ取った製品やサービスを開発し、介護業界がより充実していくと思います。

今、介護業界で問題視されているのは、人手不足です。これからは、業務が簡素化するようなサービスや人手をサポートする製品が、必要になってくると思います。今後もヘルスケア事業の実証の場として、積極的にスタートアップと連携していきたいです。

ウェルネスバレー推進協議会
フラワーサーチ大府 施設長 鈴木智貴さん



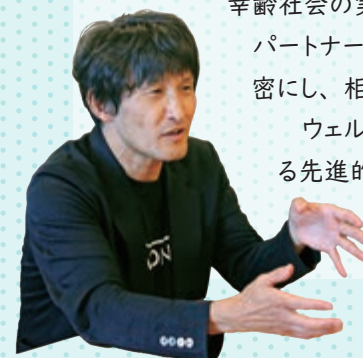
INTERVIEW ウェルネスバレーから世界へ発信

景気の停滞による失われた30年を打破していくため、県はスタートアップにフォーカスした支援をしています。スタートアップのみを支援するのではなく、愛知県の圧倒的な産業集積を生かすため、既存企業との協業も促進し、経済成長へつなげていきます。

幸齢社会の実現を図るウェルネスバレー推進協議会をSTATION Aiのパートナー拠点として位置付けさせていただきました。連携・協力を密にし、相乗効果を図っていききたいと思います。

ウェルネスバレーが、ヘルスケア事業において世界的に注目される先進的な地域となり、当地域でのスタートアップなどの取り組みの成果が国内外に広く展開されることを期待しています。

愛知県スタートアップ推進課 課長 長谷部淳さん

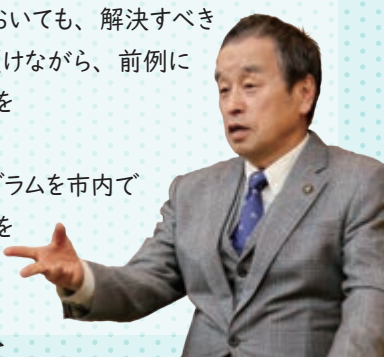


INTERVIEW 誰もが挑戦できるまちへ

市は、健康・長寿関連機関が集積するウェルネスバレーの強みを生かして、ヘルスケア産業の創出に取り組んできました。STATION Aiパートナー拠点への位置付け、STATION Aiのオープンをばねに、スタートアップとの連携によるイノベーション創出に、より一層力を入れて、スタートアップとのネットワーク構築と支援体制の強化に努めます。

ヘルスケア産業以外に、環境や教育、防災などにおいても、解決すべき課題は山積しています。現場の一つ一つの声に耳を傾けながら、前例にとらわれず、積極的にスタートアップの技術・サービスを取り入れていきます。

昨年度から、小・中学生を対象とした起業体験プログラムを市内で開催しています。今後も子どもたちに将来の起業家の夢を育んでもらえるよう、市独自の政策も検討していきます。



大府市長 岡村秀人

ウェルネスバレー

×

スタートアップを語る

